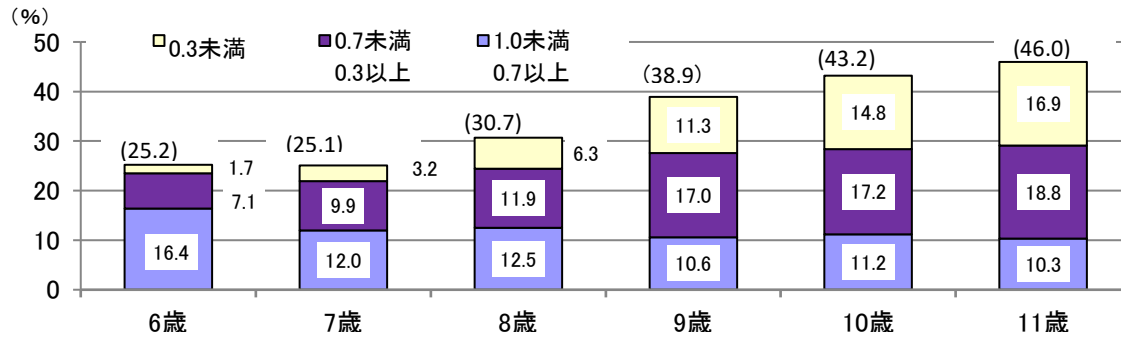


Ⅱ 調査結果の概要

1 主な疾病・異常被患率

裸眼視力1.0未満の者の割合は、6歳（小学校1年生）では25.2%、9歳（小学校4年生）では38.9%、11歳（小学校6年生）では46.0%と、年齢が上がるとともに増加した。小学生の裸眼視力1.0未満の者の割合は、35.0%と、過去最多となった。



むし歯（処置完了者を含む）の者の割合は、幼稚園26.4%、小学校36.2%、中学校26.9%、高等学校34.9%で、すべての学校段階で、過去最少となった。

(単位：%)

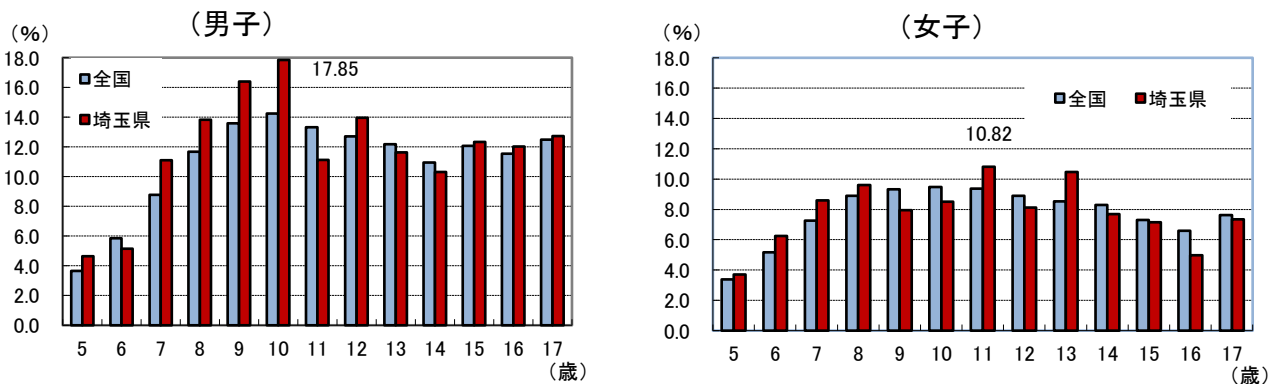
年度	H22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1	R2
幼稚園	46.3	42.8	36.9	35.7	32.4	33.9	33.8	29.8	28.8	28.2	26.4
小学校	56.0	51.7	52.7	49.6	48.3	46.5	44.1	41.5	37.9	40.0	36.2
中学校	44.6	39.6	42.5	39.9	33.4	34.9	30.1	33.0	31.0	28.0	26.9
高等学校	55.4	51.8	48.2	52.0	46.2	55.1	41.9	44.0	38.9	38.7	34.9

2 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

肥満傾向児の割合は増加傾向、特に、男子では7～17歳、女子では11歳、13歳で10%を超えた。一方、痩身傾向児の割合は概ね横ばい傾向となっている。

肥満傾向児の出現率は、男子では10歳（17.85%）、女子では11歳（10.82%）が最も高く、痩身傾向児の出現率は男子、女子とも16歳（男子5.28%、女子4.27%）が最も高くなっている。

(肥満傾向児の出現率)



令和2年度の数値については、いずれの項目も調査時期の影響が含まれるため、令和元年度までの数値と単純な比較はできない。